

## 実践例「学習指導の深化・充実」

### 第6課題

「主体意識をもって、仲間と共に高め合う学習過程の改善充実を図る」

I 学校名 枝幸町立音標小学校【宗谷管内】

### II 研究の概要

#### 1. 研究主題

『児童が主体的対話的で、深く学ぶ授業づくり』  
～協働的な学びによる授業改革の推進～

#### 2. 研究主題について

- ◇主体的・・・自分と向き合い自ら行動する。やりがいを目指す。夢中になって取り組む。
- ◇対話的・・・「対象と対話する」「他者と対話する」「自己と対話する」の三位一体の重視
- ◇深く学ぶ・・・教科の本質的な学び。探求的な学び。学ぶ喜びから生きる学びへ。

#### 3. 研究主題から目指す授業

- ① 児童が主語となる授業
- ② 教師が話しすぎない授業
- ③ 児童が聴き合う授業
- ④ 45 分間、思考し集中し続ける授業
- ⑤ 児童が互いの学びを支え合う授業
- ⑥ 児童が仲間に「分からない」とつぶやける授業

一人一人の個の学びを充実させる。

#### 4. 協働的な学びによる授業改革

- ① 協働的な学びは、学びの本質である。
- ② 一人残らず子供の学びの権利を保障する。
- ③ 課題の質を高めることで、学力の低い子も高い子も学べる時間を確保する。

座席を4人グループ又はペアにすることで非言語コミュニケーションを充実させ、深い学びを支える。

#### 5. 児童の机の配置

- ◇男女混合4人グループで組織する。(3～6年)
- ◇コの字型またはペアで組織する。(1～2年生)
- \* 対面式一斉講義型個別バラバラ座席配置の授業形態の禁止(いわゆるテスト隊形はダメ)

## 6.授業について

- ・児童全員が獲得する資質能力に対応した共有の課題(ノーマルヒル課題)と児童全員が「分からない」からスタートし、全員が達成できなくても良い質の高い課題(ラージヒル課題)の二部構成で授業する。
- ・ノーマルヒルの課題では、教科書レベルの問い。短時間で解けなくても良い。また、ラージヒル課題で習得内容を理解できることが少なくない。
- ・ラージヒル課題はできる層の子供たちでもすぐには解けない水準の課題とする。
- ・「教え込む」「教え込まれる」関係を脱する。
- ・「理解⇒応用」のプロセスのみならず、「応用⇒理解」というプロセスも同時に重要なはたらきをしている。

## 7.教師の関わり

◇だれ一人、独りにしない！

- ・全ての学習者に自分の考えをもたせ、表明する機会を保障する。
- ・全ての学習者がもった考えを他者と対話する機会を保障する。
- ・他者と対話しやすいようにペアや小グループを意識した座席配置にする。
- ・児童の援助要請には、「みる」「聴く」「つなぐ」「全体にもどす」など関わりの中で学び合えるように支援する。

## 8.授業研究の充実を図る。

◇参加者全員による「学びの見取り」のトレーニングとする。

- \* 授業者のスキルアップではないため、授業者への助言は必要ない。
- \* 子供一人一人の学びの状況を 45 分間×児童数の区画で見とる力を付ける。
- \* 年間 10 回以上の公開授業研修を実施する。

## 9.研修機会の確保と学ぶ機会の充実を図る。

- ① 日常の実践を日々公開している。(毎日が授業公開)
- ② 校内授業研の積極的公開(10 回以上/年)
- ④ 先進校への視察研修(多数)
- ⑤ 校長による 15 分間ミニ研修(多数)
- ⑥ 教職員による専門研修

**管理職は、先生方の学び  
を全面サポート！**

## 10.実践の成果と変化

### A 児童側の変化

- ・**学習意欲の向上**;算数について話す児童が増え、「わかった」時の喜びを知ることで探求心が膨らんだ。
- ・**主体性の変身**;指示待ちではなく、自ら教材教具を取り出す、仲間同士で解決しようとする、仲間と聞き合うといった自らの行動がみられるようになった。
- ・**心理的安全性の確保**;保健室利用者数や欠席数が激減。仲間とのケアの関係(援助要請の活発化)が構築された。生徒指導案件が減少し、大きなトラブルがなくなった。
- ・**学力層を超えた意欲**;学力の高低にかかわらず、ジャンプの課題に対する抵抗感がなく、授業デザインの工夫が進んだ。

### B 教師・組織側の変化

- ・**指導観の転換**;**「教え込み」**の罫を自覚し、子供の学びを**「見取る」**感覚を習得。
- ・**専門性の向上**;職員室で子供の学びや教科指導についての質的対話が日常化した。
- ・**教育課程の改善**;複式の良さを引き出すための単元配当の入れ替えや授業デザインの工夫が進んだ。

